

## 第1回融合委員会の目的

京都の未来像と重点戦略のアイデアを抽出すること

## 成果の概要

2時間 50 分のワークショップを通じて、京都の未来像と重点戦略について、各テーブルから、幅広い視点からアイデアが抽出されました。

京都らしさの切り口から意見交換が進んだグループや、「京魂（きょうこん）」といった新しい言葉を産み出したグループ、「新京都人が担う京都の未来」といった京都スタイルに共感する人を新京都人と定義したグループなど、各テーブルで多様な切り口から、京都の未来が語られました。

未来像、重点戦略の視点として、京都の多様性を活かしたまちづくりや安心して住み続けられる京都、国際的やサステナブルといったテーマを基にした融合都市としての京都の在り方、産業経済、若者や子どもなど次世代の力を活かしたまちづくり、歴史ロマン、観光など様々な方向性をもったものが提案され、特定分野に偏らない議論が展開されました。



6テーブルでワークショップを行いました。



ワークショップは真剣かつ和やかな雰囲気で行われました。

## 実施概要

- 日時 平成21年11月9日（月）午後1時～午後4時10分
- 場所 ひと・まち交流館京都（2階大会議室）
- 参加者 尾池審議会会長、宗田融合委員長  
審議会委員（32名）  
行政職員（16名）  
テーブルマネージャー（6名）  
記録（6名）

## 当日のプロセス

- 開会  
○尾池会長あいさつ、門川市長あいさつ
- ステップ1  
○プログラムの説明
- ステップ2  
○宗田委員長から、京都市の現状と課題について報告  
○松山議長から、若者会議 U35 の若者提案について中間報告  
○平井副委員長から、未来まちづくり 100人委員会の活動について報告
- ステップ3  
○未来像・重点戦略の書き出し  
◇未来像・重点戦略をポストイットに記入
- ステップ4  
○発表  
◇ポストイットに記入した未来像、重点戦略をテーブル内で発表
- ステップ5  
○テーブル案まとめ  
◇未来像、重点戦略をグループ内で意見交換を行いながら整理分類
- ステップ6  
○全体共有 未来像・重点戦略のまとめ  
◇各テーブルからの未来像・重点戦略を全体の場で発表
- 講評  
○各テーブルからの発表をふまえた尾池会長からの講評



門川市長が「大学、産業、人などあらゆる力を融合したところに京都の未来がある。」とあいさつ



宗田委員長から、地球温暖化や厳しい財政見通しを踏まえた政策融合の必要性などについて詳しく説明



松山議長から、多様性、10年後の社会の変容、若者ならではのつながりなどの視点からの報告



未来像と重点戦略のアイデアが満載されたポストイットが次から次へと・・・



メンバーからの発表を聞いて、新しい視点に気付くことも！



様々な視点から出された未来像、重点戦略を分類する難しい作業をグループで協力して進めました。



各テーブルの成果を参加者全員の前で発表し、全体で共有を図りました。



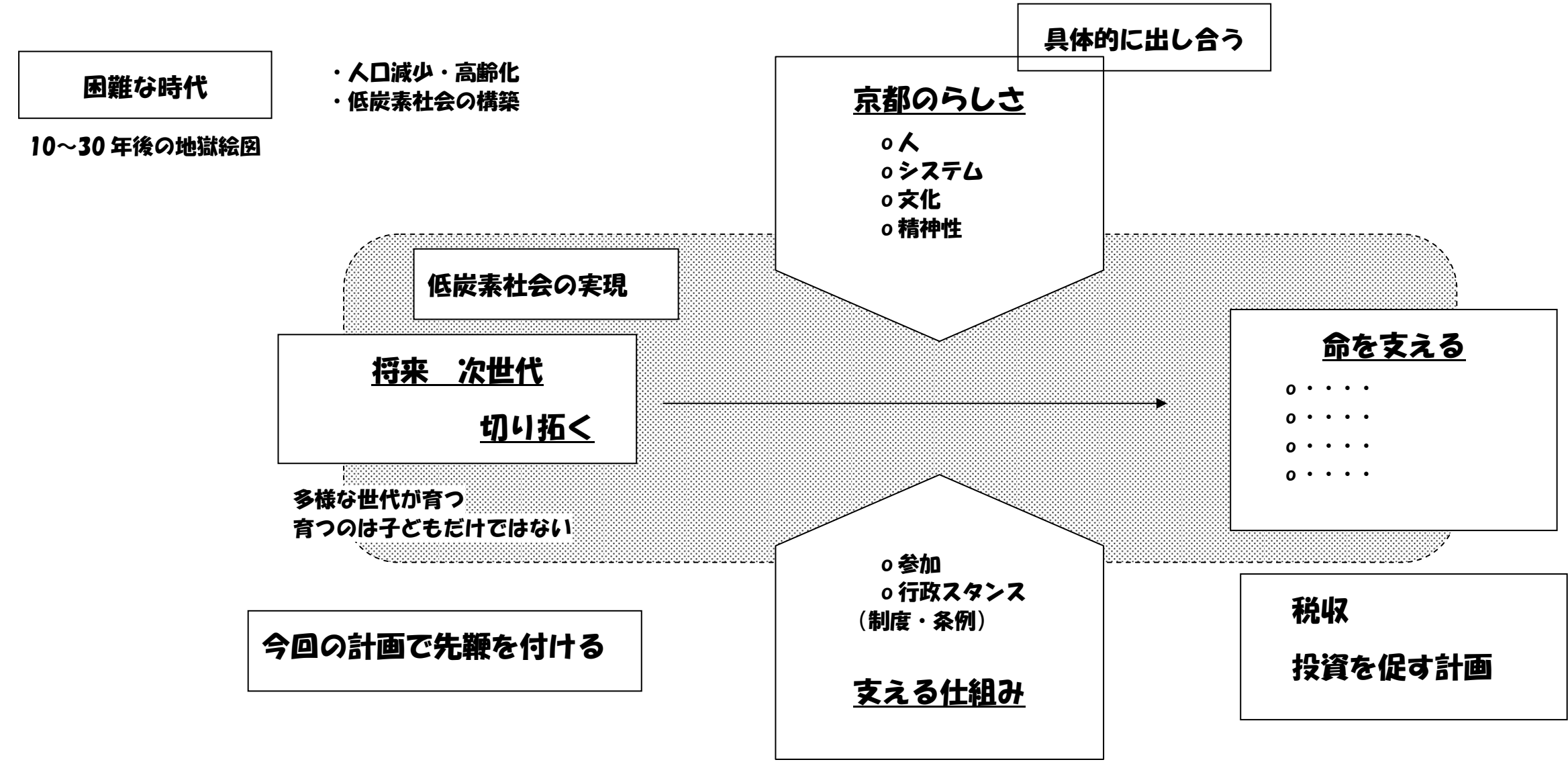
尾池会長から、「本日は「～ではないか？」という発表が多かったが、根拠となるデータを京都市に求め、事実に基づいた結論を出していただきたい」と講評

# テーブル1

## 未来像と重点戦略の方向

浅岡 美恵  
荒木 陽子  
乾 亨  
川越 順二  
齊藤 修

菅原 さと子  
田中 誠二  
辻 俊子  
西村 隆



大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
教育	幼児教育がすべての基本であることの認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 子育て支援の一元化</li> <li>➤ 私立幼稚園→公立小の教育の充実</li> <li>➤ 環境の取り組みも幼児期より</li> <li>➤ 教員の待遇アップ</li> <li>➤ 待機児童「0」まち「京都」の実現</li> </ul>	・ 幼児教育の社会的地位の向上（教育者）
	気持ちの良いまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 人を不快にさせることを恥ずかしいと思える人材の育成</li> </ul>	・ 放置自転車のモラルの問題、自転車マナー
子育て	多子健康長寿都市「京都」の具体的実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 合計特殊出生率2.0以上の達成できる教育、医療、住宅の整備</li> <li>➤ 生活習慣病対策の充実</li> <li>➤ パブリックスペースの全面禁煙の条例化</li> </ul>	
	ライフスキルを若者に	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 短時間労働でも正規社員として働ける労働政策</li> <li>➤ 保育所、児童館、放課後まなび教室（働いている間の子どもの居場所）</li> </ul>	
	男女が共に仕事と家庭を両立		
	楽しんで子育てできるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 子育て支援ボランティア（高齢者の生きがい対策にも）</li> <li>➤ 他府県からの若いカップル世代の流入を促進する子育て支援の整備</li> </ul>	・ 見守り隊
	子どもをキーワードに	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ うるおい部会において、各部会それぞれで、例えば「子ども」をキーワードに話してもらったという意見がありました</li> </ul>	
観光	年齢、人種を越えた心温まる京都の街	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 人を信じる、人間の関わりを地域の中で培う</li> <li>➤ 京都の文化を幼い頃より養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然な外国人交流を子どもの時から</li> <li>・ 公園等の集まる場の創出</li> </ul>
	京の文化を（観光）ターゲットにわけて	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 自動車の乗り入れ抑制（CO2抑制）</li> </ul>	
	世代間交流の促進（観光を通して）	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 高齢者の活性化</li> </ul>	・ 観光客との交流
	京のもてなし	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 修学旅行生のホームステイ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 滞在型観光</li> <li>・ 京都市民になりたくなる取組（修学旅行→リピーター→住まい手）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 町家の活用</li> <li>➤ 生活文化を伝える</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 市民参加によるMICEの振興</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MICE: (M) Meeting, (I) Incentive, (C) Convention, (E) Exhibition の4つのビジネス分野の頭文字をとった造語</li> <li>・ 都市特性を活かしたMICEの振興</li> <li>・ 観光振興：国際会議の誘致 世界的ブランドへ</li> </ul>
	国際MICE都市「京都」の国際競争力の向上と都市ブランドの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 会議場、宿泊施設の受入環境の整備 4000～5000人必要</li> <li>➤ 積極的なMICE誘致施策の推進</li> <li>➤ ホテル・宿泊税等の新たな税収制度の導入</li> </ul>	・ 新たな財源の確保
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ FITの積極的なプロモーションの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FIT: free individual traveler の頭文字をとった造語。個人旅行。個人で行う旅行または個人の旅行者。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ラグジュアリー市場への積極的なコミュニケーション戦略の展開</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 多様なニーズに応える宿泊施設の整備</li> <li>➤ プレミアデステーションとしての観光コンテンツの充実</li> <li>➤ ALL京都での観光サービス向上の取組体制の構築</li> </ul>	
交通	歩いて楽しいまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける</li> </ul>	・ 地下鉄のキャンペーン 環境、財政、歩きやすさ

大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
	地下鉄に乗ろう 環境-経営-健康-観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自転車も乗れる地下鉄 <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル（赤字対策）</li> </ul> </li> </ul>	
環境	持続可能な低炭素のまち京都へ バックカスティングで	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 京都市の目標の明示（数値化） <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2削減</li> <li>・再生可能エネルギーの活用</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会，温暖化，低炭素社会への対応を</li> <li>・京都独自の取り組みを</li> <li>・既定のロードマップがあり，それに示されたギャップを埋める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 交通 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩くまち，トランジットモール</li> <li>・自転車のなじむまちづくり</li> <li>・公共交通機関で行きたいところに予測できる時間で</li> </ul> </li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大規模排出源対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の政策と地域の政策</li> <li>・高付加価値産業</li> </ul> </li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 室内，自動車， <ul style="list-style-type: none"> <li>・得になる取り組み</li> <li>・消費者選択</li> <li>・貧困者対策</li> <li>・家族への施策</li> </ul> </li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 居住，建築物…景観 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共建築物から更新，改修</li> <li>・風の通るまちづくり</li> <li>・緑のあるまちづくり</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑のまち</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 市民参加，NGOの関わり方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとづくり</li> <li>・仕組みづくり</li> <li>・実践</li> </ul> </li> </ul>		
	100年（10年）の計=計画は規制や切り捨てを伴いやすい 弱いものを支えながら (高齢者や子どもや障害者 etc)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 都市部の創生はうまくいっている <ul style="list-style-type: none"> <li>・147万都市でみれば・・・</li> <li> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔 周縁部のミニ開発地区                      まちづくり+福祉の融合戦略 袋路の高齢者                                      が必要</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
市民参加	極論ですが，国がどうなるうとも 地域で生き延びる力 市で（区で），学区で・・・ 例）隠岐の海士町	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ コミュニティ政策 <ul style="list-style-type: none"> <li>〔 地域主権</li> <li>地域による地域運営</li> </ul> </li> <li>=エンパワーメント</li> <li>例）まちづくりアドバイザー，コーディネーター</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域分権 <ul style="list-style-type: none"> <li>分権とは何かをじっくり考える</li> <li>地域で地域を運営</li> <li>→金と決定権限を移譲する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このまま進んだ場合のシナリオを描く</li> <li>・バックカスティングの手法</li> <li>・すべての施策について</li> <li>・組織と人</li> <li>・三丁目の夕日には戻れない</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 仕組み（制度）と担い手（組織も人も）</li> </ul>	
	市役所から City Hall へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 市のあらゆる施策が市民にひらかれている</li> </ul>	
	京都の特性に付加価値を加える「地域プロジェクト」による活力創造のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 公民協働の多彩な「地域プロジェクト」の創生</li> </ul>	

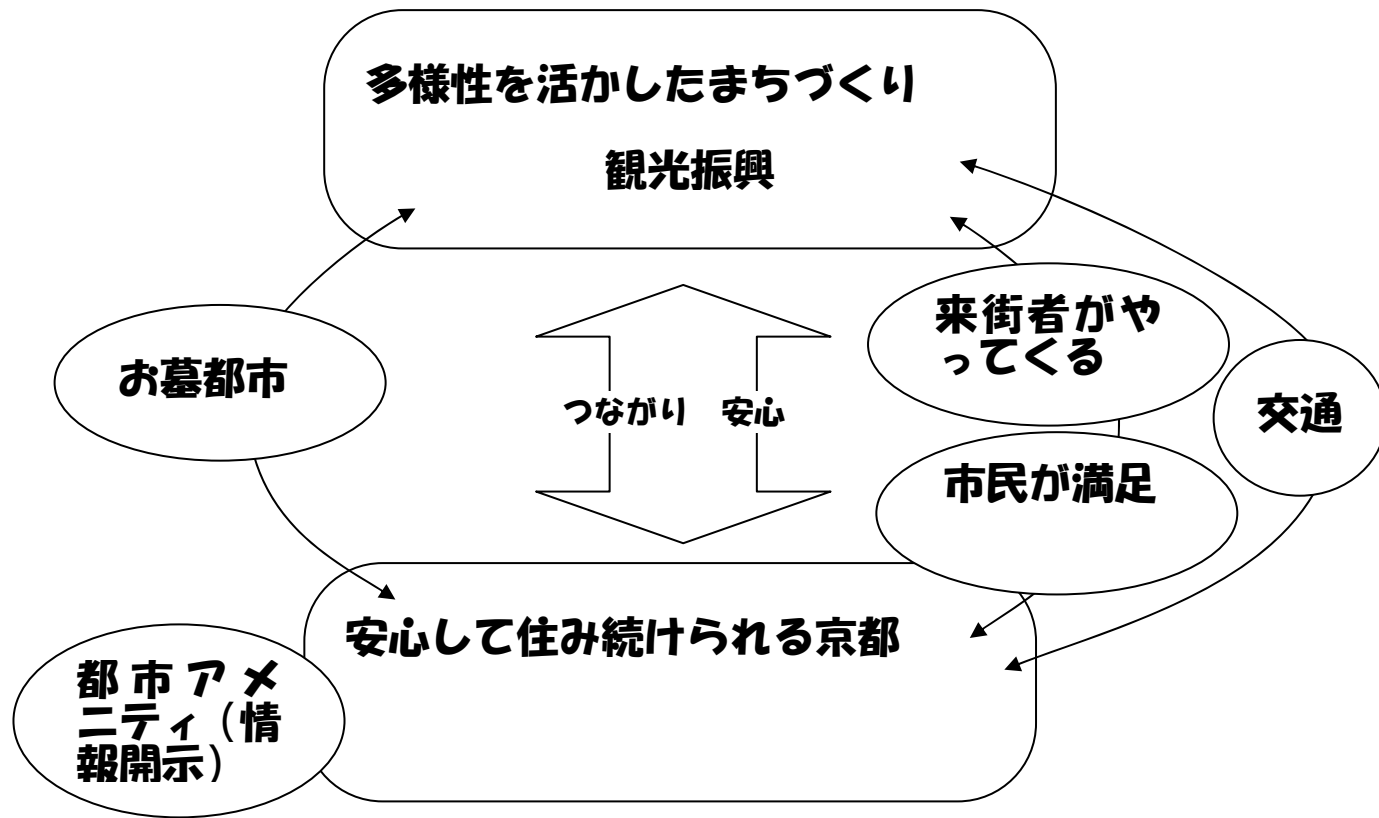
大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
	本物の市民参加のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ コミュニティ単位の「わが町宣言」！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民参加として具体的に何をすればよいのか？を議論していかなければならない。</li> </ul>
	「包み込む社会」 地域コミュニティの21世紀型再建	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 生活圏型NPOが懸け橋 NPO+既存自治会 リーダーの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民参加の仕組み</li> </ul>
京都らしさ	「京都スタイル」な暮らし方を発信・実践する都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基本計画で「京都スタイル」な暮らし方モデルを提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こういう京都でありたい！</li> <li>・ 戦略的に</li> <li>・ 世界の中での「京都」</li> <li>・ 「京都スタイル」→普遍的な問題の取組</li> </ul>
	「誇りの持てる社会」	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスメディア</li> <li>・ 観光客 5000 万人に直に伝える</li> </ul> </li> <li>▶ 低炭素社会の京都モデルの創造による世界への貢献</li> </ul>	
	最先端の知にアクセスできるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大学が市民をギャラリーとして受け入れる</li> </ul>	
融合	<p>地域主権までを「融合」に含めるなら、「融合」ではない？ (まざりあい, 一体化) みんな違ってみんないいを大切に=やはり, 異なる者の「協働」では？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 課題の生活化(身近な問題化) 特に環境や景観, 観光</li> </ul>	

**テーブル2**

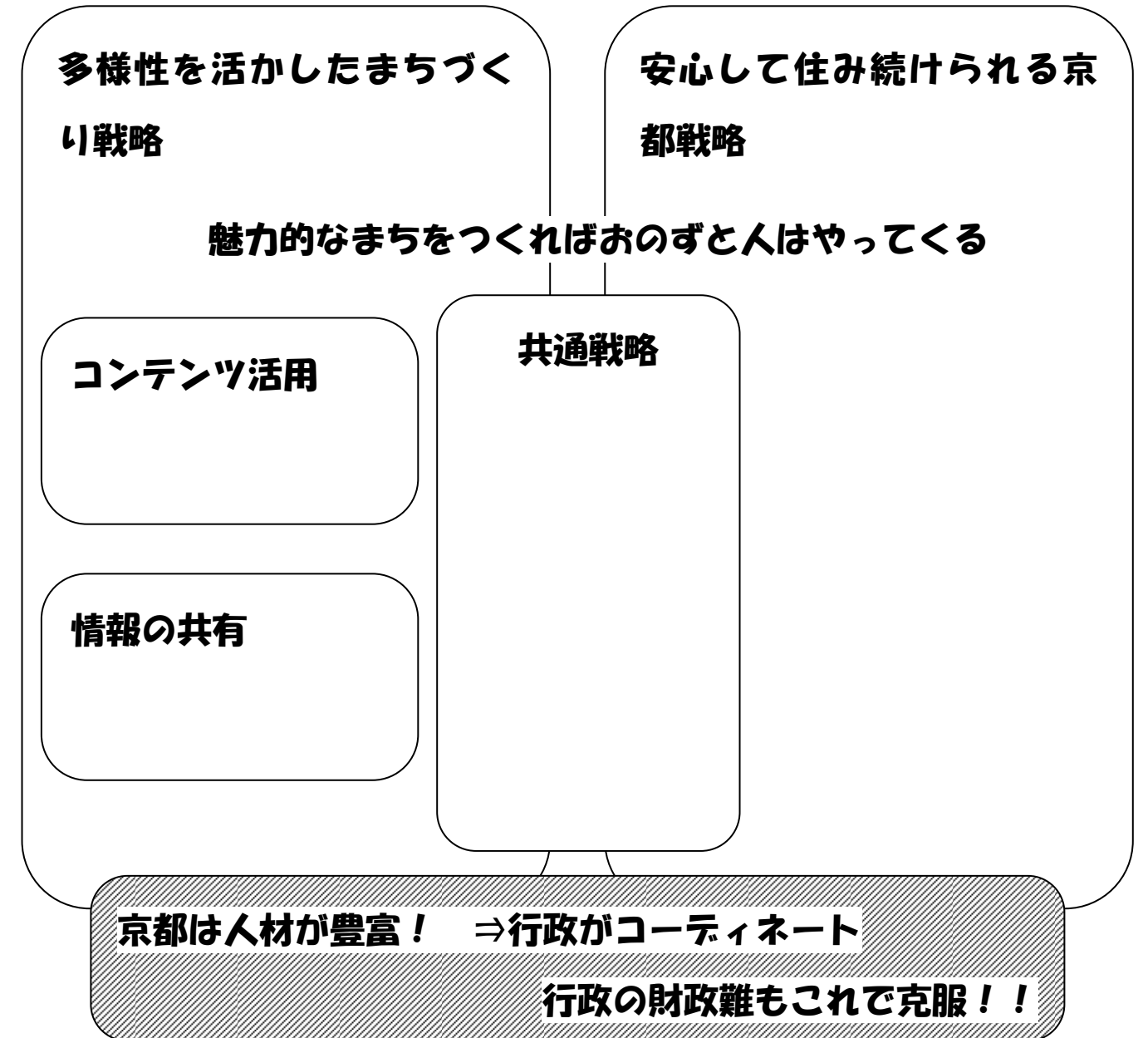
**多様性を活かしたまちづくり ←つながり→ 安心して住みつづけられる京都**

荒牧 敦子	孫 美幸
在田 正秀	長谷川 純
梶田 真章	平井 誠一
柴山 薫	光本 大助

**未来像**



**重点戦略**



大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
多様性を活かしたまちづくり 観光振興	郷土愛あふれる市民づくり	➤ 地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市とアメニティの調和</li> <li>・思いやりの心</li> <li>・伝統産業と触れ合う機会</li> <li>・下宿させないで大学生を送れる</li> </ul>
	国際文化観光都市として成熟した都市へ	➤ さまざまな地域をつなぐ (例) 山間部, 町中	
	都市のアメニティと生活者の癒しの場が共存する街	(例) コリアンの歴史を活かす	
	ただいま都市	➤ 地域の発展に多様な人が関わる (例) 留学生, 観光客, 住民	
	真の観光都市	➤ 多文化共生のまちづくりの推進	
	職業訓練が2倍に増える		
国内外から人々が集い住み続けるまち 京都	≪コンテンツ活用≫ ➤ 徹底した「らしさ」の保存と開発 ➤ 市内の真ん中に「わたしのしごと館」をつくる  ≪情報の共有≫ ➤ 地域に「わたしの情報箱」の設置 ・個人・居住地を属性した情報コンテンツの創設 大⇒小ではなく, 小⇒大へ ➤ 地域活動についての情報交換の場の設定 (学区内も学区間も) ➤ 種々のグループの交流による地域の活性化  ≪観光・もてなし≫ ➤ 観光施策を量から質へ変更 (観光業者+市民+寺院) ⇒行政は市民や事業者の取組のバックアップ ➤ 市民のおもてなし力を上げる (都人とのふれあい) ➤ 観光教育を通じて京都のすばらしさとおもてなしの心を育む ➤ 心のバリアフリー運動		
安心して住み続けられる 京都	(高齢化社会に向けて) 認知症があっても安心して暮らせる 京都	➤ ごみ問題 (分別など) を切り口に, 地域のつながりを再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱い人が安心して暮らせる</li> <li>・あらゆる階層, あらゆる世代</li> <li>・どんな特徴があっても住み続けられる</li> <li>・地域の中での関係性の創出 ⇒安全・安心のまち</li> <li>・郷土愛⇒地域愛</li> <li>・地域の特性</li> </ul>
	子育ても孤立させない地域社会 京都	➤ 高齢者のつどうサロンと働く親が安心できる地域の子ども見守り活動の融合	
	いつまでも住み続けたいと思える地域づくり	➤ シルバー110番 (市民力で)。地域資源を中心に身近なところに相談窓口を	
	子どもから高齢者まで世代を超えた日常交流のある地域づくり		
お墓都市	京都の多様性を活かした町づくり	➤ 日本人の共同墓 (塔?) のデザイン公募	
	住民も観光客も満喫できる京都	➤ 宗教の説法, 哲学の講義に毎日気軽に触れられる	
	人とのつながりに安らぐ京都		
	他の生き物の暮らしに学ぶ京都		
都市アメニティ (情報開示)	個人を主人公とした情報開示都市 京都	➤ 情報格差の克服 (例 インターネットの使用可否)	・自分と地域とのつながりを意識した (できる) 情報提供,

大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
共通戦略		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域ごとのキャッチフレーズ制定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもてなし, ごみゼロなど</li> </ul> </li> <li>➤ 子どもたちに社会的な役割を与える <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内, ごみ分別, 掃除</li> </ul> </li> <li>➤ 高齢になっても役割を持てる社会 (年寄りを働かせよう)</li> <li>➤ 共有自転車のまちを推進(自転車シェアリング)</li> <li>➤ 本当に機能するパークアンドライド</li> <li>➤ 観光地に車を入れない(周遊バス)</li> <li>➤ 車に乗らない観光が得になる条件をつくる</li> <li>➤ 人材の上手な活用</li> </ul>	<p style="text-align: center;">} 世代間でいろいろとできるとよい！！</p>

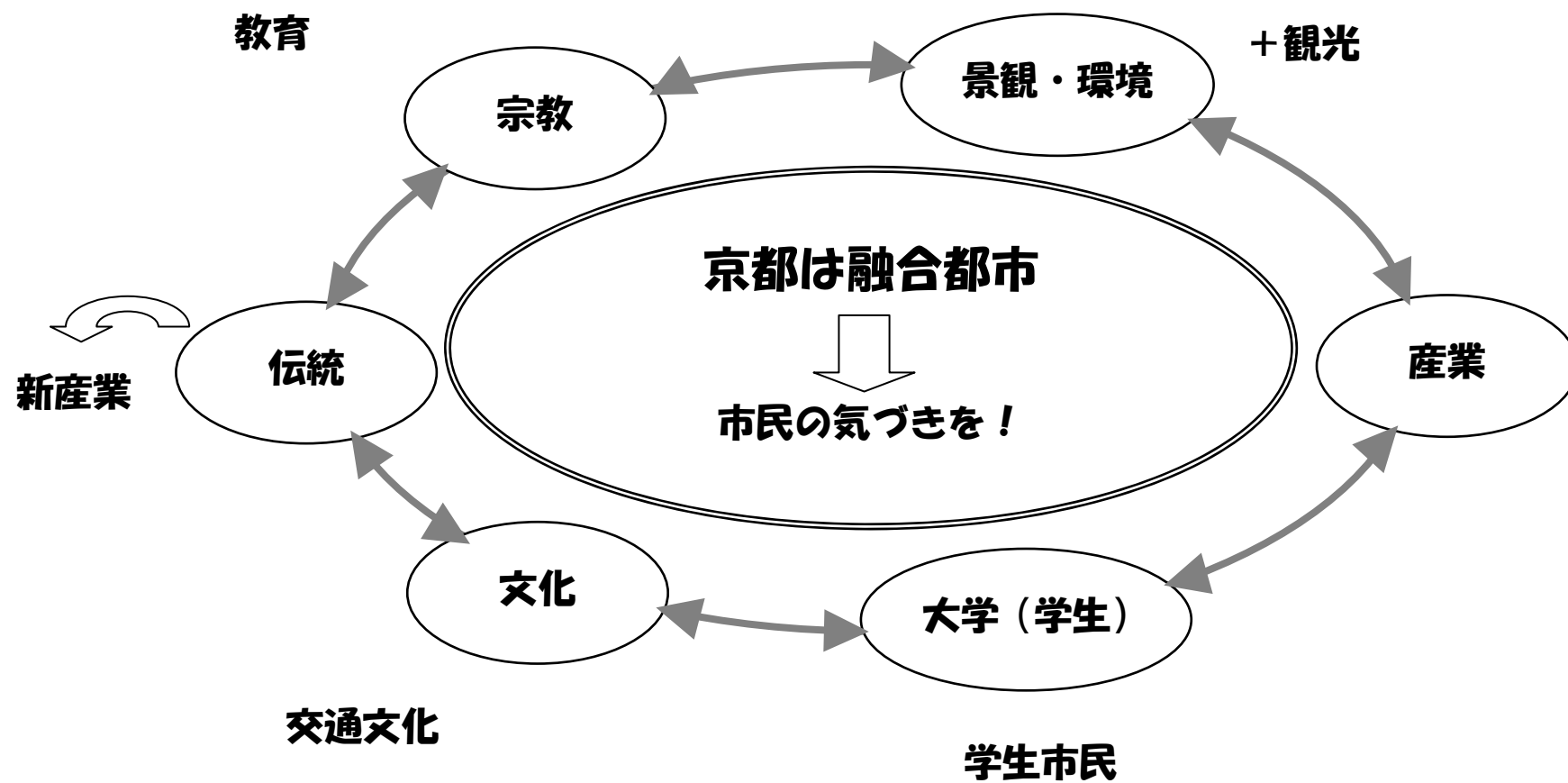


# テーブル3

## 目指す都市 融合都市

☆京都は昔から「融合都市」であるが、そのことについて市民をはじめとする多くの人が気づいていない。市民の気づきを高めることが必要。  
 ☆4つのテーマを根底に各分野が融合している。

小幡 正雄	西居 智司
白須 正	西村 明美
谷口 知弘	濱崎 加奈子
塚口 博司	林 建志



### 京都のテーマ

- スロー（時間持ち）**  
 時間持ち, 京都ならではのゆったりとした時間の流れ。  
 →歩くまち, 自転車のまち
- 文化化**  
 日常的な行動を京都の文化として高める。(交通文化など)
- インターナショナル**  
 京都の魅力の再認識
- サステイナブル**  
 多様なサステイナビリティを持ち, かつたつなまち

大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
文化・伝統	日本、そして世界の人々を魅了する歴史都市，創造都市 京都を訪れたい 京都で学びたい 京都で働きたい 京都で暮らしたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 文化財の保存・復興，歴史博物館の建設</li> <li>➢ 伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備</li> <li>➢ 歴史的景観の保全・整備</li> <li>➢ 芸術文化を産業に <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都で芸術活動を行い，芸術活動が楽しめる条件づくり</li> <li>・観光との連携，施設整備，活動支援，海外交流</li> </ul> </li> <li>➢ 祭礼の復興 <ul style="list-style-type: none"> <li>・“元”のやり方に戻す。例）祇園祭を2回に</li> <li>・祭日は小中学校を休みに</li> <li>・祭の参加について，大学の単位認定</li> </ul> </li> </ul> →コミュニティ再生，産業再生（伝統）観光につなげる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統を守りつつ，国際的な都市に（文化を伝える）</li> <li>・ 旧暦を意識し，季節感をもつ</li> <li>・ GHH：目指せブータン。仏教の教え，京都からの発信（GNH（Gross National Happiness）：国民総幸福度）</li> <li>・ 京都市民が一番幸福であると感じる</li> </ul>
	歴史都市 歴史や伝統文化を守り，伝え，育てる		
	芸術文化都市 芸術文化を楽しみ，味わえる		
	1200年が見えるまち 過去の遺産を生かす 歴史がみえる形に		
	ひとが集い，学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都		
	五感で京都らしさを感じるまち		
	GHH（グロス，人間，幸福）NO.1の都市 文化を育てる 住んで良かった		
	京都ブランドをはがしても誇りを持てるまち 新しい『京都・きょうと・KYOTO』の創出		
宗教	宗教都市 宗教の教えを日常生活に息づかせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 人々の交流，学びの場，拠り所としての寺院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の宗教を知っている人がほとんどいない</li> </ul>
大学・学生	大学都市 全国，世界の若者があこがれる都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 教育の中で地域の歴史と人の勉強。行事と季節を大切に</li> <li>➢ 若者文化の創造，発信の拠点と芸術文化のサポート。創作，発表の場やスペースの確保</li> <li>➢ 京都の大学卒業生の組織化（准市民）京都の大学卒業生のネットワーク化</li> <li>➢ 大学の一般への公開。</li> <li>➢ 学生→学生市民へ →学生区民へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学生を一時期のお客様扱いしない</li> </ul>
産業	大学のまち・京都 人材立地	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 全国から大学のまち・京都に学生が集まり，市民・地域・企業との交わりの中で学び，京都の場の力を活かして自分を深める。そして，卒業後も京都に住む拠点とする。「都市間競争の時代にあって輝きを失わない都市」を促進する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業立地の先を行く人材立地（リッチ）</li> </ul> </li> <li>➢ 大学生を重点に展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学・下宿先等をプロモートするツアー</li> <li>・ 京都に住む，働く場合の奨学金返済支援プログラム</li> <li>・ 夏・冬の休暇期間中の家族型，グループ型，京都産業ツアー</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本社を京都に。グローバル化が進むなかで，企業風土を理解してもらいやすい</li> <li>・ 人材立地（リッチ＝豊か） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロモーション</li> <li>・ 奨学金の返済</li> <li>・ 支援プログラム</li> </ul> </li> </ul>
	創造的産業都市 時代をリードする産業や企業を育成，振興する	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 研究開発型企業の育成，集積</li> <li>➢ ベンチャー企業の創出</li> <li>➢ 創造的サービス産業の振興</li> </ul>	

景観・環境	環境 NO.1 都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ごみゼロへの挑戦（100%再利用）</li> <li>▶ 市内の電気は 50%以上自然エネルギーの利用（太陽光，風力）</li> <li>▶ 市内の交通制限 <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間（11～22時）</li> <li>・エリア（旧市街）</li> <li>・車種（電気自動車）</li> </ul> </li> <li>▶ 環境←伝統的景観から <ul style="list-style-type: none"> <li>・近郊農業の復興</li> <li>・緑化は“農”と“鎮守の森”で十分</li> <li>・“庸”？</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境都市の再宣言</li> <li>・人が自然と集まる場所をつくることで、自動車の締め出しにもつながる</li> <li>・田植えの風景などフィールドビューの形成</li> <li>・農地を増やすことで、食育，観光資源に</li> <li>・農作業の風景が景観をつくりだす</li> <li>・農作業を昔の「庸」とする</li> <li>・世界で唯一のまちが、どこにでもあるまちになってしまっている</li> <li>・</li> </ul>
	美しい町・人・景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ヒトがつくる景観 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校の制服を着物に</li> <li>・僧侶の方は辻へ</li> </ul> </li> <li>▶ ハード面の景観 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看板の罰則規定を</li> <li>・消防法の特別措置による木造建築の普及</li> </ul> </li> </ul>	
コミュニティ	多様な主体（市民，企業，行政）が地域社会の問題解決に取り組む『共助』の京都。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域，学区単位で社会ビジネスを起こそう <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用したコミュニティビジネスを</li> </ul> </li> <li>▶ 京都で社会ビジネスを起こそう <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会企業家の育成。コミュニティビジネス，ソーシャルビジネス</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ，人材育成，市民の誇りと幸福，まちの美しさ，サステナビリティ（多面的）</li> <li>・計画中期で団塊の世代が高齢期に</li> </ul>
	人が優しいまち・支えあうまち ～地域力と人間力の向上～	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 住みよいまちづくり</li> <li>▶ 地域コミュニティの再活性化</li> <li>▶ まちの縁側 222 戦略（昔のちびっ子広場を縁側づくりへ）</li> <li>▶ モラル・マナー向上戦略</li> <li>▶ ばったん床机が似合う道づくり戦略</li> <li>▶ 寄付文化の醸成戦略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔のチビッコ広場→縁側づくりをサポート 222 学区ごと</li> </ul>
	80 歳を越えても元気に楽しく働ける都市 京都 人・世代・景色・産業 美しい共育のまち（はぐくみ，そだてる）		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 低炭素社会+歩くまち+文化（交通）+先端産業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車+ナビゲーション</li> <li>・歩行+ナビゲーション</li> </ul> </li> </ul>
スロー サステナブル	文化と産業の融合都市 多様なサステナビリティを有するまち ・環境，雇用 ・疎外される人がいない ・文化，歴史，コミュニティ ☆タフなまち		
文化化		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 既存の文化から新たな文化へのらせん状の発展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の行動パターン≒文化</li> </ul> </li> <li>▶ 環境と歴史・文化との融合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境：先端技術，工夫された市民生活（ライフスタイル）</li> <li>・歴史：文化：京都ならではの第1級特性</li> <li>・環境首都，文化首都</li> </ul> </li> <li>▶ 新たな文化概念としての「京都交通文化」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性（地形・地勢）や歴史文化（広義）を背景として，低炭素社会や少子高齢化の中で生み出される新たな交通行動</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都のまちはあらゆるものが文化につながる。</li> <li>・「交通文化」→交通行動（日常のもの）を京都ならではの文化としてとらえる視点を持つ。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 交流する場素づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・それを結ぶ動線の充実 例）交通手段，道</li> </ul> </li> <li>▶ 観光の一番の負のイメージである交通渋滞の解消</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インフラの徹底的な活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通インフラの徹底的な活用</li> <li>・もし，交通インフラがなかったらどうなる？</li> </ul> </li> </ul>	
交通		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 財政基盤づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・不採算部門の民営化</li> </ul> </li> </ul>	
財政			

# テーブル4

## 京都の誇り

## 京魂（きょうこん）

- ・ 都市の格、品位、本物
- ・ 伝統→未来へ
- ・ 変化の中でも、作っていく、京魂を入れる
- ・ しまつ（ムダしない 張り込むところは張り込む）

石田 捨雄  
上村 多恵子  
高木 博司  
田中 翔

平竹 耕三  
藤田 晶子  
本村 哲朗

### ● 京魂のある文化

- ・ はんなり、もてなし

### ● 京魂のある環境

- ・ もったいない

### ● 京魂のある産業

- ・ ほんまもの、たくみ

大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
文化・観光 ～世界文化～	世界文化自由都市 ・ やすらぎのある、華やぎのある、訪れてよし、住んで 良しの京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 多文化共生、精神の自由（人権）⇔責任</li> <li>➢ 国家戦略としての京都創生へ</li> <li>➢ 景観保全にメリハリをつける。一律規制の緩和</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の中での役割と使命を位置づけてほしい</li> <li>・ 電線、電柱の無電柱化へ</li> <li>・ 一律規制の緩和（例 高さ）</li> </ul>
	文化が商売になるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ライフスタイルの変革を地域コミュニティの活発化によって実現する</li> <li>➢ 広域的な社会資本整備   ・ 鉄道、道路、空港、港湾などへのアクセス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客 5,000～6,000 万人⇒広域アクセス、どうやって京都   に来るか 例）リニアモーターカー</li> </ul>
	人を育てるまち、日本文化のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 京都検定から、体験型の京都通認定をして、多様な体験をして   もらう</li> <li>➢ 京都以外では日本文化、工芸などの衰退が激しい。京都だけ   も守っていける仕組み   ⇒人材育成</li> <li>➢ グローバルな人材教育   世界からの人材、才能、頭脳が集まる制度</li> </ul>	
	暮らし	子育てしやすいまち（将来に希望が持てるまち）	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 多文化共生、共助ネットワーク、歴史文化体験</li> </ul>
	大人が元気に暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ わかりやすく合理的な情報発信</li> <li>➢ 市民活動のバックアップ</li> <li>➢ 数だけでなく、質の高い観光施策</li> <li>➢ 京都ならではの教育（特に初等教育）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客多い → しんどい、くたびれた はNG</li> <li>・ 子どもが将来に夢をもてることにつながる</li> </ul>
	住み心地度の高い街 （文化度だけでなく）		
	伝統産業、伝統文化を大切にするまち （お金で買えない文化の蓄積）		
環境	循環型で環境調和型のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 水と緑をネットワークし、新御土居構想</li> </ul>	

～環境先進～	環境先進都市 ・環境先進都市として行動する京都へ ・特に交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 自動車に不便なまち。自転車利用促進。歩くことで、生活習慣の変更</li> <li>➤ 京都市民の行動を形にする</li> <li>➤ 交通社会の変化を実施する</li> <li>➤ 観光客にも意識させる環境モデルの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都駅を降りたら(出たら), 様々なものがエコ電力を活用するものとなっている。</li> </ul>
産業・経済	観光産業が発展し, 市民が参画する低炭素社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 国際観光都市京都と環境モデル都市京都の融合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然エネルギーで照明</li> <li>・ 観光地内でリサイクル</li> <li>・ 公共交通のみで観光地間を移動</li> </ul>
	日本のふるさと京都を世界に発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 環境と経済成長の連鎖を生む ・低炭素社会化を経済と技術イノベーションで生み出す</li> </ul>	
	京魂多才都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 京都の伝統文化, 伝統産業, 伝統芸術をつなぐ体制をつくる</li> </ul>	
	食農の連携(一次産業) 地産地消	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 多種多様な民の人材交流</li> <li>➤ 学生, 地域の交流</li> <li>➤ 伝統と先端</li> </ul>	
	食農の連携(一次産業) 地産地消	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地元食材の利用により, フードマイレージを下げる(CO2を下げる)</li> <li>➤ 日本(世界)に誇れる京の食文化(京野菜, 日本酒)</li> <li>➤ 京都の食料自給率のUP(CO2を下げる)</li> </ul>	
財政の健全化	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 財政健全化のための民間資金導入 ・レベニューボンド, 新PFI方式など</li> <li>➤ 地下鉄の民間委託 ・東西線は京阪に, 南北線は近鉄に</li> </ul>		
若者	若者の活力を引き出す京都を目指して	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 若者の活動支援ネットワークづくり</li> <li>➤ 若者と地域との結びつき構築</li> <li>➤ 大学と地域を結びつける, 受け皿づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学区のソフトボール大会にむりやり参加→地域を実感</li> </ul>
	学生のまち(ポスト学生も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 京都第二の故郷構想 ・学生に「京都学士号」を出し, 卒業後もインターネットを介して情報発信, つながり維持。</li> </ul>	

# テーマ5

## 「新京都人」が担う京都の未来

ひとづくり ～京人（みやこびと）が営む～  
 コミュニティ ～生涯安住の都市～  
 暮らし方  
 都市 ～1200年の歴史ロマン体感都市～

☆「新京都人」：京都スタイルに共感する人たち。定義についてはなお議論が残っているが、京都の担い手を少し広げて考え、育てることで、様々な分野にスパイラルに影響し、効果が得られる

秋月 謙吾  
 浅利 美鈴  
 大前 絵美  
 糟谷 範子  
 加藤 博史  
 高嶋 学  
 寺田 敏紀

大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
ひとづくり ～京人（みやこびと）が営む～	京人（みやこびと）が営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者（学生）ちょう（超）兵制度→農林、環境、福祉などに従事する</li> <li>高齢者ちょう（超）兵制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者や高齢者を地域につながる職業に従事させる仕組みをつくり、そのことを通じて京都を担う人づくりを進める。（「徴」ではなく「超」）（「ちょう兵」の語については議論あり）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育の充実、「京都人の育成」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職人と触れ合う機会を増やす。本物に触れることを通じた学習の効果ひとづくりの促進。「京都は人や環境がやさしい」と言われるようなまちに</li> <li>ひとづくりでは、高校・大学以上でモデルを作ること（座学+体験プログラム）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>10年後の京都を担う子どもたちの生活環境を考慮すべき</li> </ul>	
コミュニティ ～生涯安住の都市～	担い手がもう少し広がった京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファンクラブとサポーターづくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>「ファンクラブ」：金は出す、口は出さない</li> <li>「サポーター」：金と汗と口を出す</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都を担う「京都人」の幅を広げる</li> <li>インフォームドされた（京都について歴史等の知識を持った）京都人をつくる</li> <li>「さすが京都人」と言われるような若者を育てる</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり人材を先行投資的に育成する教育プログラム</li> <li>学生→京都に引き続き居住する →まちづくりに貢献する機会を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の定着をどのように図るか</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の個性の理解と発展</li> <li>質の高い社会資源の提供と定期的な把握・見直し</li> <li>姉妹都市のように町内会・自治会単位で過疎地域との姉妹地区協定を結ぶ</li> </ul>	
暮らし方	生涯安住の都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な地域住民ネットワークを構築（「お互い様ですよ！！」と気軽に声かけのできる様な）</li> <li>誰もが生きがいをもてる地域態勢を構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連する話として、自営業の世帯は時間に融通が付きやすく、助け合いや地域にかかわりを持ちやすい。自営業を見直しては。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民自身の自助努力も必然（自己決定・自己責任）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連する話として、生活保護を簡単に頼める環境にあることが、自立を妨げることになっていないか</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会（コミュニティ）がしっかりしているまち</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>多様性の活きる社会を創るため、高齢者や障害者にも地域で担える役を持ってもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割を担うことで多様な社会参加が進む</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>友愛訪問活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都には昔からさまざまなサロンがあった。交流の場が重要であり、交流ないと思いやりが生まれにくい</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>都市の光と影を把握すべき。見てみぬふりはできない</li> </ul>
暮らし方	人と環境がやさしい京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩いてまちのよさを実感（景観、交通、文化、安心安全、にぎわい、バリアフリー、個性豊か）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性も安心して夜歩ける</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>おもてなしの心、支えあう心を高める施策の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとづくりの促進 「京都は人や環境がやさしい」</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境に囲まれているという立地を大事にする施策推進</li> </ul>	

大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
	美・伝統・芸術を創造する都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ものづくり教育</li> <li>➤ 学校教育に活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都のありようをどの用意に教えていくか=本物にふれる</li> </ul>
	持続と健康のためのライフスタイル (LOHAS) をつくり出す都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ごみの仕分けを地域住民のコミュニティビジネスにしていく</li> <li>・ 生ごみ処理も</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 徳島県では仕分けを徹底している。京都でなぜしていないか</li> <li>・ 各職種が元気であるべき</li> <li>・ LOHAS (ロハス) Lifestyles Of Health And Sustainability (健康と持続可能性の (あるいはこれを重視する) ライフスタイル) の略</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 多様な京都の個性が元気なまち (大学, 企業, 宗教施設, 文化)</li> </ul>	
	開かれた共同が実践されるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 国際市場を創設する (ベトナム, フィリピン, コリアン・・・) (多文化共生の拠点とする)</li> </ul>	
	雇用がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 雇用政策の充実 (ものづくり産業, 健康福祉の担い手増)</li> </ul>	
都市 ～1200 年の歴史ロマン 体感都市～	街全体を世界遺産に (ショーウィンドウ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各時代の歴史遺産の保全・再生とネットワーク (国家予算, 民間ネットワーク)</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 京町家の保全・再生 (次世代継承システム)</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 歴史的都市基盤の保全・整備 (都市計画, 住宅, 道路, 建築指導, 景観の融合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神社仏閣だけでなく, 町並みも保存</li> <li>・ 震災後の京都復興計画を今から考えておくべき</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ &lt;融合&gt; 歴史遺産を現代に継承する人材育成 (教育・産業)</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ &lt;融合&gt; 文化芸能振興</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々なジャンルのツアーが組める (文学, 時代, 芸能など→人材育成につながる)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ &lt;融合&gt; 学術・産業コンベンションの誘致</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 世界最先端技術・情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統だけでなく, 先端性を合わせ持つ京都</li> </ul>
	京 (みやこ) 流コンパクトシティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 商いや物づくり (職人) が成り立つ制度改革 (地域, 建物)</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 公共交通機関インフラ大改造 (公共交通無料)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下鉄を無料に</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 京 (みやこ) パスポート</li> <li>・ 寺社仏閣</li> <li>・ 公共交通</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 京の心 (エコココ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコ+ココロ</li> </ul>

# テーブル6

石田 敬子	高城 順一
遠藤 有理	竹下 義樹
加茂 みどり	松山 大耕
川崎 雅史	森 洋一
炭崎 勉	

大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
子育て, 子ども中心で	「子育ては“ブランク”ではなく「スキル」である」という意識 市民・企業共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>0～3歳（できれば9歳）までの人間としての基礎作りの間に十分愛情が満たされる様に, 子どもからお母さんをうばわない政策</li> <li>母親自身の社会との隔離感を埋める mini スキルアップ講座(エコ, 食育)</li> </ul>	・人はわかっているが, 企業が分かっていない
	子ども達が輝く将来を描くことのできる京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもをサポートするという視点からの育児サポート・教育</li> <li>子どもの24時間を見直す</li> <li>子どもに大切にされているという感覚を生む</li> <li>男性の育児参加 男性支援</li> </ul>	・親ではなく「子ども」をサポートする
	ノーマライゼーション発展型まちづくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>男性が行う子育てを見放さない</li> <li>人が交流できる環境を整える必要</li> </ul>
カテゴリーない社会	カテゴリーのない社会 (子ども, しょうがい者)		
	高齢者と若者のつながりが深いまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者や学生が高齢者住宅にステイ</li> </ul>	
	人にやさしくぬくもりと活力のある都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における三世代交流の場の設置</li> <li>人にやさしい歩きやすい街路整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都に根付く場所がない</li> <li>お年寄りが昼にまちに出てきて談笑するようなまち</li> </ul>
	京都に愛着や誇りを持てる市民であられる	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来の京都を担う子ども, 若者への郷土愛育成プログラム(京育)</li> <li>元気な高齢者の知恵を活かす</li> <li>学生が地域で活躍できる場をつくり</li> </ul>	
若者のまち? 働く場を自分達でつくる 若者が根付く場所がない	大学の街＝若者の街に	<ul style="list-style-type: none"> <li>起業・就職をもっとサポート</li> </ul>	
	京都＝修行ができる 自分が高められる	<ul style="list-style-type: none"> <li>修行者ネットワークの創設</li> <li>京都賞の創設・誘致</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植木, 舞など京都＝若者の登竜門に</li> <li>それを支える施策が必要</li> <li>人を育てて全国に送り出すまちとしてのあり方もある</li> </ul>
	革新的な都市づくりの技術と人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の連携による新しい技術・人材の育成プラン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者がとどまるには働き口が必要</li> <li>→なければ自分でつくればいい</li> </ul>
文化都市 ・遺産を守る ・創造 新しいもの	もっと文化に触れられるまちに	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者文化パスポート(パリの街)</li> </ul>	・年間〇〇円で文化施設利用が可能とする
	日本中・世界中から人が集い交流する文化都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点づくり(ex 岡崎, 北山 文化ゾーンとして再整備 公共空間, 緑, 情報)</li> </ul>	



大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
	都市の遺産を守り抜く 美しく風格のあるまちづくり ひとつづくり・ものづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>社寺仏閣、京町家等の保全</li> <li>伝統芸能・伝統行事等の担い手育成、門掃き、水まき等の伝承</li> <li>一子相伝のものづくりなど</li> <li>「ほんまもん」づくりの継承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化担い手</li> <li>地域コミュニティの活性化</li> </ul>
	平安から現代までの歴史が体現できる都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産の活用</li> <li>景観政策の推進</li> <li>京都ならではの暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>距離によって駐輪場をタダにする</li> </ul>
	世界無形文化遺産に祇園祭が指定され永く守られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都府民の日＝7月17日 休日に</li> </ul>	
	生涯逸品	<ul style="list-style-type: none"> <li>手入れをして一生使える道具の提唱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店を守りながら伝統文化を継承する</li> </ul>
地域自治の再構築	伝統と創造の人づくり まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統を支える人たちと若者のふれあい、交流の場の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史・伝統に依存しすぎ</li> </ul>
	自治のまち京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が参加する行政 区-学区-町内会の位置づけ再構築</li> <li>強固なコミュニティ（地縁に頼りきらない重層的コミュニティの構築）</li> </ul>	
	市民が市政にもっと深い関心がもてる社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都のランドマーク・象徴になるものを作る（100年単位で）</li> <li>&lt;融合&gt;文化芸能振興</li> <li>&lt;融合&gt;学術・産業コンベンションの誘致</li> <li>世界最先端技術・情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の思い入れの深いもの</li> <li>様々なジャンルのツアーが組める（文学、時代、芸能など→人材育成につながる）</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統だけでなく、先端性を合わせ持つ京都</li> </ul>
環境	国際的な環境モデル都市 京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境</li> <li>市民が企画する省エネルギー</li> <li>先進的なエネルギーシステム</li> <li>平成の京町家</li> <li>景観</li> <li>無電柱化</li> <li>平成の京町家</li> </ul>	
	地球にやさしい公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下鉄を中心とした交通</li> <li>ネットワークの確立</li> <li>駅周辺の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用しやすい地下鉄・バスのネットワークが必要</li> <li>観光シーズンの渋滞ひどく、観光客に迷惑かけている</li> </ul>
	楽しんでエコロジー	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車マイレージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人がたまるしかけづくりが必要</li> </ul>
	グリーンインフラ社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンインフラ（街路整備、河川 etc）</li> <li>緑地の質的向上（構造的体系の目標化）</li> <li>水のネットワークの再評価</li> <li>街路整備（緑のじゅうたんをひく）</li> </ul>	
1%アクションへの取組み 具体的に進めるために市民が負担しあうしくみ	みんなが少しずつ京都・地球・自分のために行動できる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>1%アクションの取組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民1人でゴミ1つ→全市民で150万個に</li> <li>まずは勝手連で取組む</li> <li>宿泊税の感覚で、社寺・料理店・ホテルが1%を捻出する</li> </ul>
観光 訪れる人にやさしいまち 観光拠点のみち、拠点づく	真の観光都市とは		<ul style="list-style-type: none"> <li>観光都市だが客にやさしくない</li> </ul>
	歩ける、休めるまち・みちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅、公園</li> <li>みちの統合的景観整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物だけでなく道路を含めた景観の整備</li> </ul>

大きなテーマ	未来像	重点戦略	補足
り	魅力ある玄関づくり 駅の拠点・ターミナル	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 交通手段の整理(空間整理, バス停)</li> <li>➤ 交通行動のスムーズ化 (サイン計画, 情報)</li> <li>➤ 観光行動拠点</li> <li>➤ 休憩空間としての駅</li> <li>➤ 広場</li> </ul>	
	老若男女国籍を問わず歩きやすいまちに	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 交差点座標化</li> </ul>	・ 例) 西大路四条 A-4
	ゾーン制の廃止		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ゾーン制」(用途地域など) 人の暮らしがないと死んだまちになる</li> <li>・ 「保存地区」人の暮らしを考えていない</li> </ul>
安心と活力 ベーシックな防災	防災意識の向上と知識共有と 観光の情報との融合	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 情報の効率化, ソフト減災対策 (防災情報と観光情報)</li> <li>➤ ハザード意識の向上 (PR!知識教育の拡充)</li> <li>➤ 耐震などの維持の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鴨川のはんらんなど</li> <li>・ 一般の都市としての防災意識の向上が必要</li> </ul>
新文明開化 京都のアジア戦略は? →新成長経済を描く	新文明開化 (アジア戦略と新成長経済)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 南部開発 拠点の整備</li> <li>➤ 文化の情報発信の集約化</li> </ul>	
	経済と景観の両立 相互成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 新景観政策の精緻的見直し</li> </ul>	